なんもく山村ぐらし通信

2024(令和6)年8月発行
通巻第42号（夏季号）

発行責任者・発行元：
南牧山村ぐらし支援協議会
問合せ：南牧村役場
移住・定住課
協議会事務局
電話：0274-87-2011(代)
紙面編集：松林・高柳

協議会QRコード

協議会HP
https://nanmoku.org/
活動内容や各種情報を
随時更新中！

【空き家問合せ件数】
R6年1～6月（前回比）

電話：28件（+17）
1月 2件
2月 4件
3月 3件
4月 7件
5月 6件
6月 6件

メール等：25件（-2）
1月 4件
2月 2件
3月 0件
4月 7件
5月 6件
6月 6件

現地見学：26件（+1）
1月 7件
2月 2件
3月 3件
4月 4件
5月 2件
6月 8件

【協議会ウェブサイト訪問・閲覧数】
1/1-6/30

閲覧数 44,000（↑）
訪問数 8,842（↑）
訪問者数 6,294（↑）
平均ページ閲覧数
1訪問4.9ページ（↑）

令和5年度 地域おこし協力隊
活動報告会＆移住者交流会

2月23日に南牧村活性化センターで開催した地域おこし協力隊の活動報告会についてご報告します。小雪の舞うなか100名以上の方にご来場いただき、大変実りのある会となりました。ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

地域おこし協力隊の活動にあたっては、地域の皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。一方で、隊員がどのような活動をしているのかが、十分に周知できていませんでした。そこで、地域の皆様に隊員の活動を報告することと村内外の交流を図ることを目的に、この報告会を初めて企画しました。

第一部では、県内で協力隊の受け入れや隊員のサポートを行っているNPOぐんま地域おこし協力隊ネットワーク理事長の岩崎大輔さんにご登壇いただきました。他地域の事例を参考にしながら協力隊の制度や特徴についてご説明いただいたことで、南牧村の協力隊の状況を客観的に把握できました。

第二部では、3名の隊員が活動状況を報告しました。まず宮崎大輔さんと宮崎テオドーラさんが、有害鳥獣捕獲の活動と卒業後の進路について発表しました。次に、昨年8月に着任した朝倉早也輝さんが、隊員になった経緯と、なんもくふれあいテレビでの活動について発表しました。会の内容は、なんもくふれあいテレビのYouTubeチャンネルでご覧になれます。

YouTubeチャンネル
QRコード

活動内容を発表する朝倉隊員

隊員からのコメント

宮崎大輔隊員より

今回の報告会では、協力隊4年間の活動内容について発表しました。いつも鹿を追いかけてばかりでしたので、普段あまり関わる機会がなかった方々にも自分たちがやろうとしていることを知ってもらえる良い機会となりました。現在は鹿の食肉処理施設の建設に向け動いていますが、今後はその施設を中心に鹿の利活用を通して南牧村の魅力を多くの人に届けたいと思っています。

宮崎テオドーラ隊員より

去年の4月から毎週レザークラフト教室に通い、レザー小物作りの基本を習いました。報告会の当日は、1年間勉強した成果である南牧の鹿で作った小物やバッグを展示でき、来場者の皆さんから作品への貴重な感想や応援の言葉を頂きました。これからも村内で捕獲された鹿の革で南牧村オリジナルなブランド「ナンモクレザー」を作れるよう、頑張りたいと思います。

朝倉早也輝隊員より

かなり前から準備をしてきた報告会だったが、とてもいい形で終われて良かった。協力隊になる前には岩崎さんから「南牧村は活動報告会などをやらずに協力隊の現状が見えないので、オススメできない」と心配されていた。その自分が南牧の協力隊員として発表でき、「朝倉君が来ただけで村と協力隊の印象が大きく変わった」と言われたのは、とても光栄だった。人生のどん底だった青森時代を脱し、どうして幸せになれたのか。その道筋と、いかに仕事が楽しいかを語り始めると、つい自分の発表時間を忘れてしまうのだった。

鹿の皮で作った小物やバッグを展示

移住コーディネーターからのコメント

参加者のアンケートでは、報告会を通して協力隊の印象に変化があったと答えた方が6割（回答人数31名）と、会を通じて協力隊への理解が深まった場にすることができました。

また会場内には、協力隊や移住に関する書籍、協力隊OB・OGの任期中の活動や卒業後の様子のパネルも展示しました。

ロビーでは、おつみっこや甘酒が無料でふるまわれ、外ではキッチンカーも出店していました。和室には小さな子どもが遊べる空間を設け、気に入った子ども服やおもちゃを持ち帰ることができるなど、多くの方が関わる賑やかな会となりました。

おつみっこ

報告会終了後には、ロビーにて交流会が行われました。これまで協議会では、移住して3年以内の方を対象に、村内の方々との交流会を開催してきました。今回は地域住民や移住希望者など、村内外の方々が交流する場として、立食形式で開催しました。交流会には約60名の方にご参加いただき、飲食をともにしながら報告会の感想を交わしたり、お互いを知る機会になりました。会の途中では、二拠点居住者や新規移住者の紹介も行いました。

活動報告会も移住者交流会も多くの方にご協力いただき、無事終えることができました。本当にありがとうございました。当日の詳細は会員のブログ「山村ぐらし、旅暮らし」でも紹介されていますので、そちらもぜひご覧ください！

今後も南牧山村ぐらし支援協議会をよろしくお願いいたします。

（大井川寄稿）

立食形式で開催した交流会

移住パンフレット制作中

山村ぐらし協議会では、新たに移住パンフレットを作成する活動を行っています。このパンフレットには、村民の方々がなかなか気がつかない移住希望者が感じている村の魅力と可能性を知れる情報を一つにまとめています。

主な目的としては、移住相談者が移住前に村での暮らしを多角的・具体的に想像できるようにし、移住相談の質を向上させるため、相談の度にチラシを印刷する業務を短縮し、都内で開催される大規模な移住相談にも活用できるようにするためです。パンフレット内では、村内観光に移住相談を組み込んだプランの提案や、村の支援制度の情報だけでなく、今まで相談時の度に作成していたチラシの情報や観光パンフレットで補っていた情報、口頭で伝えていた情報を記載し、今後の相談時に活用します。デザインや装丁にこだわり、手にとってもらいやすくし、村内外に配布するだけでなく、データでホームページへ掲載し、実際に冊子を手に取れない方でもデジタル版の移住パンフレットを見ていただくことで素早く移住に関しての情報を集めて行動することができます。

この夏の完成を目指して引き続き頑張ります！

岩崎香里寄稿)

会員からの投稿

南牧村で花づくりを始めて早二年が経ちました。富岡実業高校、園芸科学科を卒業しましたが、授業で勉強した内容と大違い。花を食べる虫やら、目に見えない細菌や病気とにらめっこしています。幸いなことに、南牧村には花卉部会という花卉生産組合があり、生産者・市場関係者様、県の普及職員様などとの橋渡しがすでにされており、わからないことを教えてもらうことができたので、何とか今までやってこられました。先駆者の皆様の努力と、熱意を日々感じます。昨年はヨトウムシという芋虫に悩まされ、花や、葉を食べられてしまいました。彼らは夜になると出てくるので、昼間消毒をしても陰に隠れていて、なかなか退治できません。真夏は涼しい時間に消毒を行うため、暗闇の中、ヘッドライトをつけ、20時21時になっても消毒をしました。

今年はカメムシが異常発生しているようで、毎年違った虫に頭を悩ませる毎日です。畑で作業をしていると、野鳥が遊びに来てくれることも多く、自然と戯れながら作業できる喜びを感じます。通りかかった、近隣にお住いの方に声をかけていただいて、気分転換にもなりとてもうれしいです。10年後南牧村花卉部会が存続できるように、仲間を作って、楽しんでいけたらいいなぁと思っています。

岩井麻希寄稿)

畑からの夕やけ雲

一年間の活動を経て

南牧山村ぐらし支援協議会の会長に就任して一年が経ちました。この一年間の出来事として印象に強く残っているのは昨年10月に参加した「山村の原風景・歴史的風土継承するために」シンポジウムと2月に開催した地域おこし協力隊の活動報告会と移住者の交流会」です。シンポジウムは活性化センターにて大勢の観客を前に協議会の発足の背景、活動内容、今後の展望などを発表し、また他の参加者と共にパネルディスカッションを行いました。準備時間が少ない中、移住コーディネーターや事務局と練り上げた資料の発表が無事終わり安堵したことを覚えています。活動報告・交流会につきましては表面に詳しい記事がありますので詳細は控えますが、今までに無い試みであったにもかかわらず、予想以上の来場者があり感謝しております。

そんな中、今年の4月に衝撃的な発表がありました。昨年12月に国立社会保障・人口問題研究所がまとめた「2050年までの将来推計人口」を基に人口戦略会議が地方自治体の「持続可能性」について分析したレポートでは、南牧村の2050年時点で総人口は406人で若年女性人口（20～39歳の女性）は6人が予想されるそうです。若年女性人口が6人というのも数字は衝撃的で話題になりましたが、この数字は高齢や病気やケガなどで亡くなる方の他に村に転入もしくは転出していく人も加味しています。そしてこのレポートでは比較として、もし転出入がまったく無かったと仮定した人数も掲載されています。その場合の総人口は494人で若年女性人口は21人になり、その差は総人口で88人、若年女性人口は16人になります。そこから計算すると総人口の約18%、若年女性人口の約71%が村から転出する計算になり、若年女性の転出率が極めて高いことがわかります。

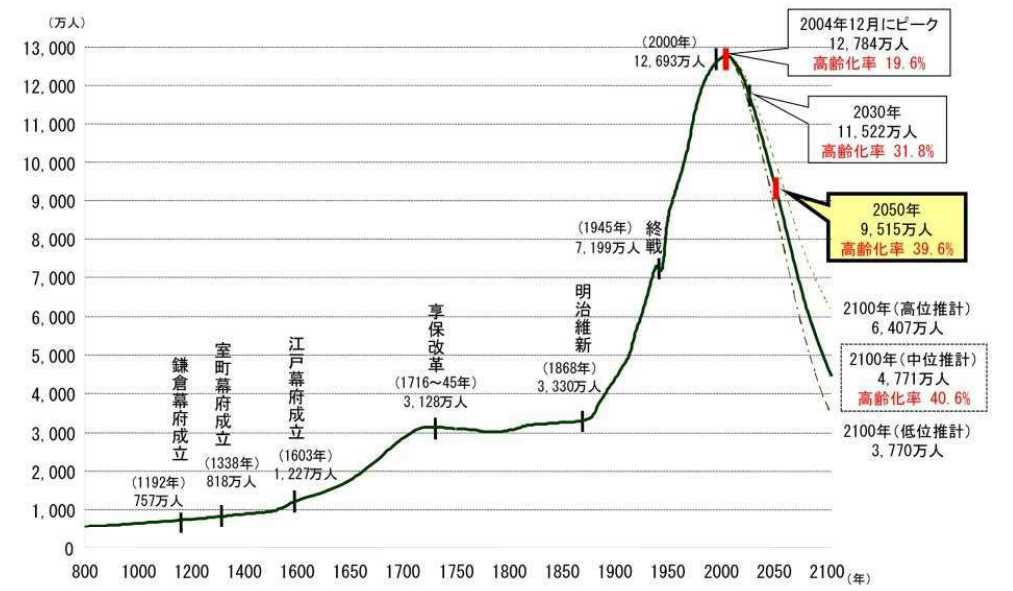
協議会では冒頭に記載した私が印象に強く残った活動の他に空家の紹介や移住相談会などを通して移住促進活動を行っておりますが、もう少し女性目線でのアプローチや子供たちが南牧村に残りたいと思うような発信ができたらと考えています。

最後にこの記事を書く上で調べた中で興味深いレポートを見つけたのでお伝えしたいと思います。総務省が発表している「我が国における総人口の長期的推移」によると2004年にピークを迎えた日本の人口は今後100年で明治時代後半の人口水準になると予想されるそうです。日本はこの先どうなっていくのでしょうか？ご家庭などで日本の未来について話し合うきっかけになればと思います。

志賀寄稿)

我が国における総人口の長期的推移

○ 我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



出典：「国土の長期展望」中間とりまとめ　概要（平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会）

南牧村の2050年人口	転出入あり		転出入なし	
	総人口	若年女性人口	総人口	若年女性人口
	406人	6人	494人	21人